

<福島県知事賞>

私の大切な場所と税金

二本松市立小浜中学校 3年 大橋 ありみ

「ここはきれいで緑豊かな所だね。」私がいつも通りにバスで帰る途中、運転手さんにそう言わされた。その言葉がきっかけで私は税金の大切さを知ることになる。

私が住んでいるのは、福島県の二本松市にある行政区、初森という場所だ。初森は歴史や伝統がたくさん残されている所だが、年々少子高齢化が進んでいる。昔こそ多くの人たちでにぎやかだったそうだが、今は約60世帯、その中でも高校生以下は10人程度しか住んでいない。つまり初森に住んでいる人のほとんどが大人で、半分以上がお年寄りの人たちなのだ。

私は小さい頃から初森の行事に参加してきた。運動会や敬老会、初森の伝統である三匹獅子舞。そしてごみ拾いや花植えなど。同じぐらいの年の子たちと初森を歩き周ったり、土いじりをしたことが今でも忘れない楽しかった思い出だ。しかし私はあるときから全く参加しなくなった。できなくなってしまったのだ。それは約6年前、コロナウイルスがはやり始めたときからだ。

初森の行事の中でも、花植えは私の家の近くの花壇で行っていた。近所のおばあちゃんやおじいちゃんたちと一緒に、色とりどりの花を植えた。私は小さかったのであまり覚えていないが、写真を見たり母の話を聞くと、私はとても熱心に植えていたようだ。けれども、コロナウイルスがはやってからはやらなくなつた。そして私はいつしか、花を植えていたことすら忘れていた。

そんなとき、運転手さんに言われてはっと気がついた。私の気づかない間に花壇は色鮮やかになっていたのだ。そして周りを見ると、きれいに道路が整備されていた。私が数年前の生活に戻ることを諦めていた裏では、おばあちゃんたちが私たちの住む初森をきれいなままでいようと頑張ってくれていたのだった。

少子高齢化は初森以外でも全国的に広まっている。2025年時点で、お年寄りの人1人を20歳から64歳の人1.8人が支えているというのが今の日本の状況だ。これから先にはもっと若い人の負担が増えてしまうかもしれない。しかし、私たちの年代が大人になったときに高齢者の社会保障対象となるのは、今の私たちを支えてくれた人たちなのだ。私はその人たちに恩返しをしたい。そしてそれができる一番身近なものは、全国の至るところで使われている税金だと思う。

たしかに税金が高くなると嫌なイメージを持ちやすい。でも私は、初森のおばあちゃんやおじいちゃんたちに少しでも生活しやすいようにしてあげたい。私の思い出の場所、初森を自然豊かできれいな土地のままにしてくれていたように。